



萩ジオパーク

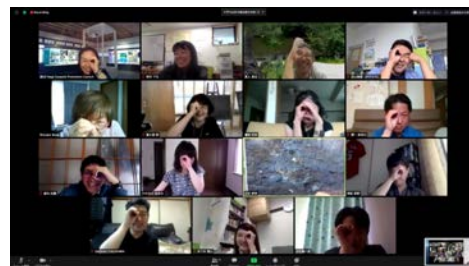
推進協議会だより vol.64



6月20日（土）、オンラインツアー『どこでもジオツアー』第1弾“地球目線のまち歩き～萩城下町編～”を実施しました。オンラインビデオ会議ツール「Zoom（ズーム）」を使って、専門員の白井が萩の町をご案内し、お客様はご自宅から参加するというもの。北は秋田、南は鹿児島から15名の方にご参加いただきました。菊屋横町や菊ヶ浜を、地質や地形に着目しながらご案内しました。

参加者の皆さんからは、景色を見る目が変わった、本当に現地を案内してもらっているようだった、と満足の声をたくさんいただきました。最後に城下町とも関連の深い『笠山』を菊ヶ浜から眺めると、「笠山に行きたい!」という声が続々とあがり、急遽、第2弾の開催も決定しました!

オンライン体験が流行する中で、野外を歩いてご案内する本格ガイドツアーは全国でも最先端の取り組みです。まだまだ課題も多いですが、第2弾ではパワーアップした内容をご提供。ぜひ、ご参加ください!



<第2弾 小さな火山・笠山ジオアドベンチャー>

【日時】 7月11日（土）10：00～11：30

【ツアー会場】 笠山（萩市）

【ガイド】 萩ジオパーク専門員 白井孝明

【料金】 ●プレミアムプラン（ガイドと音声対話可、グッズ付）：3,000円

●ベーシックプラン（ライブ配信映像の視聴、テキストチャット）：2,000円

【定員】 プレミアム：10名（先着）／ベーシック50名（先着）

【申込】 インターネットチケット販売サービスPassMarketで7月6日（月）17：00〆切

<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/O10zrt111ywrp.html>

※ 参加には、ビデオ会議ツール「Zoom」を使用できる環境が必要です。



新しい授業の形？

オンライン出前授業を行いました [6/5]

萩市立越ヶ浜小学校で、3・4年生の複式学級の児童10名を対象に、地元の火山「笠山」についての出前授業を行いました。越ヶ浜小学校と隣接する越ヶ浜中学校では、ジオパーク学習が学校の指導計画に位置づけられ、3・4年生は、ふるさと学習の一環で、3学期にはパンフレットを作り、お客様を相手に、地元を紹介します。6月5日（金）に教室で、火山噴火の実験をしたり、火山の石に触ったり、見慣れた景色の成り立ちを体験的に学びました。講師は、地元のおばちゃん・おじちゃん構成される『笠山ジオの会』。地域の大人が子どもたちのために・・・頑張っています。



現地との中継に興味津々！

今年はさらにバージョンアップ。ビデオ会議ツール『Zoom』を使って笠山山頂と学校の教室を結んだりモートガイド付きで行いました。現地の生の景色が見られたり、その場で質問できたり、一層充実した授業となりました。これまで、時間や距離、児童の人数の関係で野外になかなか出られなかった学校でも、これなら現場の空気を感じていただけるかもしれません。



児童の皆さんからお礼状が…

萩ジオパークでは、いろんなツールを駆使して最高の学びをご提供します。出前授業のご依頼、お待ちしております！

笠山ジオの会 皆さんの声

コロナウィルスで、流行りのリモートは、子どもにもわかりやすく良かったと思います。島が霞んで見えたのが少し残念でしたが、子ども達は、たいへん興味深く画面を見ていました。進行もスムーズで、間の時間をメモ・確認に利用できたと思います。ただ、笠山班（現地）に、学校の様子をもう少し知らせる方法があるといいと思います。PCとビデオカメラとwi-fiが繋がれば、今後、活動範囲が拡大されます。これからのジオ活動の一つに入れることもアリだと思いました。今回の新しい取り組みは、先生にも受けてましたね！

萩ジオパークが 地域おこし協力隊 を募集します

萩ジオパークでは、今年度地域おこし協力隊を募集します。そのミッションは「食」をテーマに地球と生産者・料理人から紐解く「萩なぜうま物語」としてまとめ、多くの人々にその物語を広めるというプロジェクトを遂行することです。具体的には、萩ならではの食材を題材として、その食材に適した環境や土地の特性を生産者や先人たちの残した苦労や工夫の足跡から見つけ出すこと、また、その地域に残る郷土料理や独特の保存法、調理法などを地元のお母さん方や料理人などから見つけ出し、これらを取材・編集して、物語（コラム）をつくっていくというものです。萩で起こった様々な地球の活動によって作られた地形や地質・土壌をベースに、人の営みによって、その地に適した作物が作られ、その土地らしい郷土料理などが生まれていったことを伝えてくれる人材を募集します。

応募は7月15日（水）まで。萩は海山の美味しい「恵み」がふんだんにあるところ。どうして美味しいのかを私たちと一緒に見つけて発信してみませんか？

<http://www.city.hagi.lg.jp/site/hagitiikiokoshi/h33146.html>



おもてなし力を磨く

萩のお宿で職員向け研修会 [5/26]

5月26日（火）に、大正から続く萩を代表するお宿『萩の宿 常茂恵』さんからのご依頼で、スタッフの皆さん向けのジオパーク研修会を行いました。大地の成り立ちを始めとする自然環境と人の関わり合いの中で生まれた萩ならではの景色や特産品のお話をした後は、足元の大地に注目しながらの町歩きに繰り出しました。

“密”にならないよういつもと勝手の違う中でしたが、皆さん楽しみながら学んでいただきました。最後にはぜひ第二弾も、というありがたいお言葉もいただきました！

コロナの影響の休業期間を活用しての取組み、素晴らしいですね（6月から営業再開されたそうです）。そのお手伝いのできたのではないのでしょうか。



地域課題の解決に向けた探究活動のヒントに 萩高校で講演をしました [6/8]

萩高校普通科2年生向けに、専門員の白井が講演をしました。萩高校では総合的な探求の時間に「萩グローバルラーニング」と題して、地域の課題解決に向けた探究活動をされています。生徒自身で課題を設定するためのヒントとなるような講演を、というご依頼を受け、ジオパークならではの視点（大地と人の関わり）で捉えた地域の特徴の話や、探究活動の進め方、目の付け所についてお話ししました。熱心にメモを取る生徒さんが多いこと！終了後には白井が先生方に囲まれて質問攻めにあう一幕も！今年は何んな探究活動が生まれるのか、楽しみです。



萩市ジオパーク活動補助金 1次募集の事業者が決定

今年度の萩市ジオパーク活動補助金について1次募集を行った結果、**特定非営利活動法人 萩元気食の会**が、昨年度に続き採択されました。

今年度は、昨年実施した「萩ふるさとごはんプロジェクト」の続編という形で、昨年度に取材・編集して作成したガイドブック『萩ふるさとごはん』の春夏編を作成し、四季を通じたブックにまとめ上げるというもの。また、オンラインで参加者と繋いで、萩の食を楽しむクッキングイベントを開催する計画です。補助額は250,000円。萩ジオパーク推進協議会でも取り入れているオンラインのプログラム。「食」という切り口での楽しい活動を期待しています。このジオパーク活動補助金は、随時申請を受け付けています。お問い合わせは事務局まで、お気軽にどうぞ。



萩ジオeアカデミー 開講に向けて

地域の皆さんに向けて開催する萩ジオユニバースのうち、萩の大地の成り立ちを第一線の研究者から座学と現地学び、土地ゆかりのお弁当でも体感する『萩ジオアカデミー』について、今年度の実施要領がまとまりました。

今年度は対面式の講座は行わず、デジタルコンテンツ（解説動画）を提供する形で進めます。毎年お世話になっている先生方に加え、新たな講師陣も迎えて、基本的な大地の成り立ちを学ぶ上で欠かせない構成となっています。充実のラインナップは以下のとおり。9月に申込受付開始、10月からの開講予定です。詳しくは次号の推進協議会だよりで先行紹介します。

内容	氏名(肩書)
活断層と地震	金折 裕司 (山口大学元教授)
地形の基礎	楮原 京子 (山口大学教育学部准教授)
地層と堆積作用	宮田 雄一郎 (山口大学名誉教授)
プレートテクトニクスの基礎	坂口 有人 (山口大学大学院創生科学研究科教授)
地形・土壌と植生	荒木 陽子 (大阪市立自然史博物館外来研究員)
火山の基礎	清杉 孝司 (神戸大学海洋底探査センター講師)
日本海形成と日本の地質	高橋 雅紀 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター)
白亜紀マグマ活動	今岡 照喜 (山口大学名誉教授)
地質図の世界/ 地球史とジオパーク/ 日本の地質とジオパーク/ 付加体とジオパーク	脇田 浩二 (山口大学特命教授)

7月の予定 - Information -

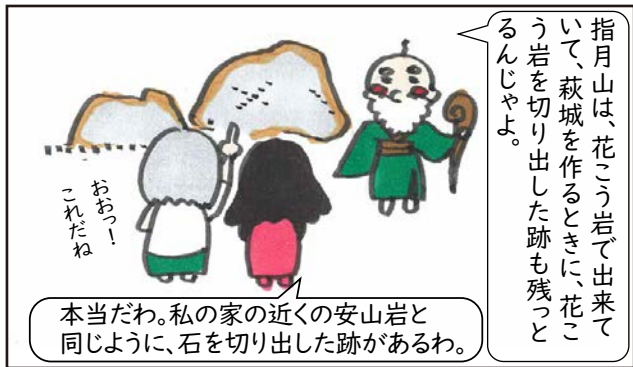
○【オンラインガイドツアー】『どこでもジオツアー』#02「小さな火山・笠山ジオアドベンチャー」
7月11日(土) 10:00~11:30 内容: オンライン会議ツール「Zoom」を使って行うオンラインツアー 参加費: 3,500円(プレミアムプラン、10名)、2,000円(ベーシックプラン、50名) 申込: チケット通販サイト「PassMarket」からクレジット決済 販売期間: 受付中~7月6日(月) 主催: 萩ジオパーク推進協議会 問合せ: 萩ジオパーク推進協議会 (0838-21-7765)

○ geoとも(萩ジオ友の会) 定例会「学習会」 7月18日(土) 13:30~16:00 集合場所: 萩市総合福祉センター 内容: 萩市の大地と防災について 参加費: 実費 主催: geoとも 問合せ: geoとも西嶋 (0838-26-6123)

はんた がんばれ!半田くん

原作：わっきー教授 画：白玉だんご

第30話 指月先生に会いに行こう



第31話 まさかの砂丘に城下町?



わっきー教授のつぶやき ~ひとこと解説~

今回は、指月山（しづきやま）でしたね。美怜小学校の指月先生のお宅を訪問するはずだったのに、あまりの狭さに、すぐ登山になってしまいましたね。でも、標高143mの指月山は、狭いお庭をカバーして余りある借景でしょうね。指月山の麓には、江戸時代の初めに、毛利輝元の居城として建造され、山頂には見張りを目的とした詰丸が置かれました。明治時代の初めに、廃城令で天守などの建物は壊されましたが、今も石垣など当時の面影を見ることができます。



という形で地表に出ることはなく、地下でゆっくり冷え固まって、花こう岩などの岩石になります。ゆっくり冷えていったので、マグマの成分が石英や長石、黒雲母などの鉱物として成長していき、粗い鉱物の粒ができあがります。ですから、花こう岩をよく見ると、表面に透明な石英や白い長石、黒雲母などの粒々が見えます。この粗い粒々が大きくて、バラバラになりやすいので、花こう岩は風化すると「マサ」と呼ばれる砂粒の集まりになっていきます。新鮮な花こう岩はとても固く、萩城の石垣にもたくさん使われています。それが、風化すると、ポロポロの砂になるんです。まさかっ…!?と思うでしょう？

萩の市街地の主要部は、阿武川と橋本川に挟まれた三角州の上に発達しています。この三角州は、阿武川が運んで来た土砂が河口付近で溜まって作られました。前号の「がんばれ！半田くん」の長門峡編で述べたように、古徳佐湖の土砂をはじめ、阿武川流域の様々な土砂が、海に流れ出る河口で、川が運ぶ力が弱くなって、溜まっていったのが三角州です。この三角州の海側に、砂丘がありますが、菊ヶ浜の南側に発達した砂丘は、海の波の力と風の力で、砂粒が次第に積み重なって出来たものです。萩の城下町は、この砂丘の上に発達しました。萩城に近い上に、砂丘が地形の高まりを作っていたので、水はけもよく、市街地としてはとても良い環境を提供してきました。自然の力で出来た砂丘は、萩市街地の発展に重要な役割を果たしてきました。市街地は、急速に発展したのかもしれませんが、砂丘だけに、早急（さっきゅう）に発展！なんちゃって。。。この砂丘は現在、海水浴や花火大会など、市民の憩いの場になっています。自然の恵みは、いつの時代も、私たちの暮らしを支えてくれています。



標高143mの指月山は大昔、地下のマグマが固まってできた花こう岩が地上に現れてきたもの

指月山は、花こう岩で出来ています。だから、山の姿のカッコウが良いんですね。この花こう岩は、今からおよそ1億年前の火山の地下にあったマグマが冷えてできた岩石です。花こう岩というのは、墓石などに用いる「みかげ石」ですね。萩ジオパークは、3つの時代のマグマがテーマになっていますが、1億年前のマグマは、その中で最も古いものになります。同じ種類の花こう岩は、萩市の玉江付近や、萩市のリサイクルセンターの近くにも分布しています。マグマは、地下に溜まったドロドロに溶けた岩石のことで、これが地表に吹き出す現象が、火山の噴火です。マグマが地表に出るときは、溶岩として流れ出したり、火山弾として吹き出したりしますが、細かくなると火山灰というものになります。

しかし、マグマは全部吹き出してしまう訳ではなくて、吹き出せなくて残されたマグマは、火山



城下町の高まりが分かる菊屋横町筋。
この地面の下はきっと砂丘の砂地ですね